

特集 「諏訪湖の水質浄化・保全への取り組み」

湖沼自然浄化活用事業を実施して

湖沼流域では、下水道等の普及が進んでいて、今後大幅な流入汚濁負荷の削減が望めないため、環境省では水辺植生、内湖、底質改善等による湖沼自体の自然浄化機能を活用した水質改善事業が有効と考えています。湖沼の良好な水環境の構築を目指し、自然浄化機能を活用した水質改善等の効果を検討することを目的として、環境省により湖沼自然浄化活用事業が委託事業として行われました。この事業は、水生植物による水質浄化作用など水質保全対策を確立し、その普及に役立てられるものですが、諏訪湖もその対象となりました。

近年、諏訪湖では湖岸に沿ってヒシが異常に繁殖し、繁茂面積は平成19年度には湖面の10%以上になっています（写真）。大量に繁茂したヒシが枯れて腐敗すると景観上の問題や貧酸素状態*、悪臭などの問題が発生します。ヒシの刈り取りを人為的に行うなどの対策が諏訪湖を浄化するためには必要になっています。そこで平成24年度と25年度に、環境省のこの委託事業に県の幾つかの機関が参加して、ヒシ除去による水質改善と刈り取ったヒシの堆肥化、上流域への農地還元（施用）について検討する諏訪湖自然浄化活用事業が行われました。ここではそのうち前者について紹介します。平成24年度調査（実施は松本保健福祉事務所）では、ヒシの刈り取りにより貧酸素状態が改善することが確認され

ました。その結果を踏まえて平成25年度に当所がさらに詳細な調査を実施しました。当初の予想に反して、平成24年度に刈り取りを実施した調査区にヒシが密集して繁殖したため、前年度に刈り取った所と刈り取らなかった所の水質に大きな差が見られませんでした。7月以降の貧酸素状態はヒシ密集度が高かった調査区で顕著に表れ、繁茂密集度が水質に影響を与えていると考えられました。ヒシがあまり繁茂していない方が水質がよいと推測されました。

平成26年度も水質改善のために貝を撒いた所やヒシの種を取った所の調査を引き続き行っています。

（堀 順一 kanken-mizu@pref.nagano.lg.jp）

*水生生物の呼吸により、底層に貧酸素水塊が形成される。
p1 参照。



写真 前年度に刈り取った所のヒシ
（平成25年7月29日撮影）

編集後記

- 51号をお届けします。次号は2月に発行予定です。
- 本誌は当研究所の活動や、長野県の環境保全及び保健衛生に関する情報をわかりやすく提供することを目的に発行しています。お気づきのことがありましたら、お気軽にご連絡ください。

（編集担当：企画総務部 電話：026-227-0354）

銀座NAGANO
しあわせ信州シェアスペース

信州の魅力をまるごとシェアできるトータルスペースが登場。

銀座NAGANO

検索